

奈良の観光活性化について

当委員会を立ち上げたとき我々は奈良の観光の実態や県や自治体の取り組みについての知識をほとんど持っていなかったため、学ぶことから始めた。

まず、南都経済研究所に依頼し、奈良の観光の実態を学び、次に県庁からは観光行政についてレクチャーを受けた。奈良観光の問題点として、来県者数は多いが大阪や京都を宿泊地とする日帰り客が多く、訪問先が奈良市周辺に集中していることである。従って一人あたりの消費額も少ない。このような状況を生み出した背景は、奈良は観光県だとの思いがあり、また、観光客数にも恵まれていた。同時に長い歴史があり気候的に安定しており経済立地にも恵まれていたため蓄えもそれなりにあり、何とか観光で地域起こしをしなければ、といった危機感も少ない状態で今日まで来ている。

更に、長年に亘り宿泊客の多くが修学旅行生だった事もあり、夜の町がもう一つ発展しなかったといった実態もある。更に、奈良にはあまりにも多くの文化財があり発掘調査で素晴らしいものが出てきても、現地説明会に行くのは県外からの人が多いと思われる。「あのあたりなら何か出てくるだろう！」というのが、我々の大半の反応であり、豊富な文化財の存在に有難さをあまり感じていない。それ故に、地元民として文化財や歴史に関する深みのある知識を持つ人も多いたとは言えない。奈良県民が奈良をあまり知らないという実態も浮かび上がった。

このような事態から脱皮する為、もっと奈良を知ろう、

「Look NARA deeper!」をキーワードと定めた。

奈良観光の課題は、県内での宿泊者の増加と県北部に集中する観光客の県南部への誘導にある。宿泊のライバルは大阪と京都である。「大阪や京都に泊るより奈良の方が良い!」この命題を解決することが求められる。

* 人は何故、旅に出るのか？行き先や宿泊場所を決める基準は何か？

人類はアフリカで生まれ約7万年前にアフリカを出て世界中に移住していったと言われてる。現在、人類は定住しているかに思えるが、紛争や飢饉で移動を繰り返している不安定な地域もある。長い長い移動の中で人間には知らない土地に行きたい、知らないことを知りたいという本能が生まれ、それが人を旅へと駆り立てているとも考えられる。

旅に出る理由で非日常との出会いが一番であることも納得がいく。見たことのない景色を見たい、食べたことのない美味しいものや珍しいものを食べたい、これらは全てこの延

長線上にあると考えられる。また、動物の持つ帰巢本能とは少し異なるかもしれないが、我々の中にも故郷へ帰りたい、自分のルーツを知りたいといった思いを持つ人も多く、古代のロマンを求めて旅に出ることも考えられる。この様な根源的な要因に、個々人の趣味等、現在持つ属性や、様々な形で入ってくる情報が加味されて行き先や宿泊先を決定する事となる。

*** 何故、同じ場所を訪れるのか？同じ場所に泊るのか？**

人間は、本来違ったところへ旅をしたくなるものである。その習性を乗り越えて、もう一度、または繰り返し同じ所へ行きたくなるのは、その土地に余程引かれるものがあるからと考えられる。それは、祭り等のイベントや花見等の自然景観等、毎年繰り返し行われる、また、発生する出来事によることが大である。そして、同じ宿に宿泊する理由は、まず、その宿のホスピタリティの高さによるところが大きい。更に、泊ることによってリラックスできる(温泉等)、食事が美味しい、宿の風情が良い、その宿からの景観が素晴らしい(夕日が素晴らしい等)、当日、または翌日の行動に便利である(行事のある場所に近い等)等々が考えられる。

これらの前提を基に奈良の観光を考え、これからの方策を模索したい。

豊かな文化遺産や見所に恵まれている。

弥生時代から奈良時代の間における文化遺産は他府県には類を見ないほどの豊富である。また、中世の遺産として、修験道や長谷詣で、南朝の遺跡また今井町をはじめ八木や郡山、五条にも古い街並みがある。

花に関する見どころも多い。桜の吉野山、牡丹の長谷寺、当麻寺、石楠花の室生寺、紫陽花の矢田寺等々があり、談山神社の紅葉も素晴らしい。また、吉野の山の森林美や川の清流、夜の星空等の自然環境、生駒山や若草山からの夜景も素晴らしい。

山の辺の道や葛城古道は日本の原風景を楽しみながら、古代に思いをはせる事の出来る日本でも数少ない道である。

食については、素麺、奈良漬、柿の葉寿司、茶粥等があるが、夜のメイン食にならないのが残念である。一方、日本酒は沢山の酒蔵があり夫々のクオリティは高い。

以上のように奈良には他府県がうらやむ沢山の観光資源がありながら十分に生かされていない。自然の景観は見るだけで感動を与えるが、文化遺産(特に埋蔵文化財)は説明がないと興味は半減してしまう。知識や興味のある人とそうでない人の楽しみ方の差が大きく出てしまう事は防ぎようのないことである。しかし、好きな人には堪らない場所である。

また、宿泊施設はかなり増えそうであるが、奈良県内に宿泊する必然性に欠ける。一般

的に良い宿泊施設が無いから奈良へ泊る人が少ないと言われるが、泊らなくてはならない状況があれば人は泊るものである。何らかの工夫により奈良の宿泊地としてのポジションを上げる事が不可欠である。

奈良の観光を活性化させる幾つかの考察

* 奈良観光のストーリーを明確にする

奈良には歴史的な文化財が沢山あるが、観光にあたってのストーリー性が無いため、ばらばらに存在し、夫々の地域で PR 活動を行っている。旅行者にとってコンテンツが多いのが災いし、どのように奈良を訪れたらよいのか良いのか選択に迷うとも考えられる。

そこで、弥生時代から葛城、飛鳥、藤原京、平城京そして中世までの歴史を時系列に捉え、それに応じた観光ルートを設定し時代背景と行き先をリンクさせ、旅行者に分かり易くする。この内容の具体化は、県内の各大学や各研究所巻き込んで行うのも面白い。

* 奈良を学ぶ。

南都六宗、奈良仏教は研究、学びの場であった。奈良には、飛鳥や纏向、葛城等々の古代に関する素材が沢山あり、これらに強い興味を持っている人々も多い。これらの人々を対象に2泊3日ぐらいの日程で座学と現地での見学勉強会を定期的に、特に観光のオフシーズンに開催する。また、勉強会は東京等の地元で行い、奈良では見学のみとする事も出来る。内容は入門コースから上級者まで段階的にカリキュラムを作ることでリピーター化も図れる。更に、この勉強会でしか体験できない内容を盛り込むことにより参加者により効果的な動機付けが出来る。奈良が好きな受講者は、地元に戻り奈良の語り部になってくれるはずで、その輪の広がりは大いに期待できる。

また、奈良県内の子供たちの教育も重要である。小学生の間に地元の歴史をしっかりと教え、学年が上がるにつれ奈良県全体の歴史と歴史遺産についての知識を身に着けるよう教育する。これにより郷土愛を醸成する。

* 奈良を歩く、走る

ビワイチがあるようにナライチも考えられるのではないか！奈良盆地を周回するサイクリング道やハイキング道を整備する。その道を中心に内外へもコースも設定する。また、ショートカット道を作る。史跡めぐり全体のコースをつくり、スタンプラリーのように全コース制覇を一つの目標としてもらう。全コースを制覇した人には記念品を贈呈するのも面白い。連泊を考えると、歩く人にとって荷物は移動の大きな障害となる。そこで、荷物を次の泊り先へ届けるサービスを行えば旅行者の利便性は大いに高まる。更に、レンタル自転車の充実や、鉄道やバスへの自転車の持ち込みサービスの充実も必要となる。

*** 奈良を分かりやすく**

奈良の文化遺産は説明が必要である。訪れた先での説明は不可欠である。そこで、携帯を活用した音声ガイドが訪れた先々にあれば、訪問先での理解がより深まることになる。

*** 奈良に美味しいものあり**

奈良産の食材を生かした、料理の開発は必要である。地産地消の観点からも地場野菜の新鮮さの提供も面白いと言える。特色のある食事を作るのは難しいが、奈良の食事は他府県の平均点よりは上だといったレベルまでは何とかしたいものである。

但し、奈良に美味しいお店が少ないのは我々の責任かも知れない。美味しいものをと考えると直ぐに京都、大阪へと行ってしまう。地元の食を育てるのは地元にいる我々の責任だとの思いをしっかりと持って、夫々の地域のお店を育てることが必要である。県内にもっとお金を落とすべきである。

*** 奈良らしさの確保**

京都ではマクドナルドの看板の色が抑えられている。反して、奈良は規制が弱いように思える。ヨーロッパを訪れても街並みがきれいに感じるのは家のデザインや色に統一性があるからである。奈良においても街並みを保存する地域を広げる、また、県内全般で使用する建物の色、デザインを限定する等の取り組みが必要である。

*** 目玉施設の建設**

伊勢はおかげ横丁で大きく変わった。奈良にもこの様な施設が欲しいものである。一つの候補地として猿沢池周辺の再開発が考えられる。大変難しいかも知れないが、出来上がればかなりのインパクトが期待できると考えられる。また、高取城や郡山城の城郭の再建も観光客を呼ぶ大きな材料となる。

この様なアイデアはまだまだ沢山ある。今後討議を重ね大いに出し合うと共に具体化についての検討が必要である。

我々同友会のメンバーが取り組むことは、我々自身が奈良の事をもっと知り学び我々自身が奈良の観光大使となる事である。仕事で県外へ出かける事も多い。そこで、時折々の奈良の情報を伝える。また、社員も同様である。転勤で奈良に滞在される同友会のメンバーも是非同様をお願いしたい。

SNSの活用も含め情報発信を多くすることで奈良の事を知ってもらうべきであり、特に表に出ない情報を適宜伝えられるのは地元にいる我々しか出来ない事である。

何がヒットするかわからない時代である。だからこそ、こまめさが求められる事となる。SNSは使い方が難しい。そこで、我々が集めた情報を同友会事務局が発信する事も検討すべきであろう。

常に、将来に向かっての方策を考え、それを具体化することが求められる。
キーワードに「Be forward-thinking!」を付け加えた。

*** 今後の取り組みについて**

①提言内容を充実するための委員会の設置

まとめのなかでいくつかのアイデアを提示した。これらはアイデア段階のもので、提言とするにはより突っ込んだ実現性の高い内容にする、また、独自性がある内容にレベルアップする必要がある。更に、継続的に新しいアイデアが出る仕組みが必要である。そのため常設委員会の設置が必要と考える。

②情報発信のための委員会の設置

SNSを通じて情報が発信され、その情報を多くの旅行者が利用し旅をしている。旅行者が検索しやすいようにサイトを絞りそこに良い情報を集約することが必要と考える。我々が日々の活動や生活の中で得た情報やインスタ映えするものを集約しそれを取捨選択し情報としていくためと、それを会員に促すための組織が必要となる。出来るだけ早く新鮮な情報をアップする体制が求められる。

③奈良まほろばソムリエ検定を取得し奈良観光大使となる

同友会のメンバー全員がまず、奈良通 2 級を取得する。次に 1 級そして奈良まほろばソムリエを目指す。少なくとも 2 級は必須としたい。